

## 令和4年度 上宮学園中学校・上宮高等学校 学校計画と学校評価

### 1 建学の精神

本学園は浄土宗を母体とし、法然上人の仏教精神を教育の根底におく学校である。知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育をおこない、慈悲の精神を育てることを目標とする。

校訓「正思明行」は、中学生・高校生として生徒一人一人が、人間としてのあるべき生き方と真理を探究する正しい心の眼と思いを持ち、理想を求めて主体的に行動することを説いている。

また、学順「一に掃除・二に勤行・三に学問」とは、校訓を実現させるための具体的な行動を示している。掃除とは文字通り身辺の環境美化を意図するとともに、学ぶ心の準備を意味する。勤行とは勤勉実行を意味する。それは一生を通して求められる生活の行動指針であり、学校生活では学業や課外活動にも規範意識を持って精進努力することであり、社会人となれば強い勤労意欲を持つことである。学問は勤行から得られる知識と健康な心身を土台として、未知への探求心や自らの疑問を解決する能力としての智慧を養うことである。すなわち、先ず心を清めて素直な心がけを第一とし、次に己が身の力の限り努力して勉学に勤めれば、学問は自ずと身に備わり、その真価を發揮できることを示している

### 2 教育目標（目指す学校像）

- ① 建学の精神を可視化した「上宮ループリック」にある具体的な教育指標をもって、心の教育を実践する。
- ② 中学生には、基本的な生活習慣と学習習慣を定着させるとともに、様々な行事を通して個性・独自性を育て、「人間力」の礎を作る。
- ③ 高校生には、大学進学等に必要な学力の養成と進路学習に重点を置くとともに、生徒の自己実現、社会参加および社会貢献に目標を持たせ、自立（自律）と社会で生きる共生の精神を育成する。
- ④ 教員は教育活動を通して社会貢献を行うという志を持ち、在校生・卒業生が上宮人として誇りに思う学校を目指し、生徒の将来に思いを寄せるとともに、いつでも卒業生を温かく迎える気持ちを持ち続ける。

### 3 中期的目標

- I 建学の精神に基づいた人材を育成する
- II 生徒の学力・進学実績の向上を目指す
- III 生徒の学校生活の充実と教育環境の発展を目指す
- IV 広報活動の戦略を立案し、志願者の質の向上と人数確保を図る
- V 健全かつ安定的な財務・経営を目指す

### 4 中期的目標に基づく、学校の本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

(A：目標が「達成できた」、 B：「7割以上が達成できた」、 C：「4割以上が達成できた」、 D：「ほぼ達成できなかった」)

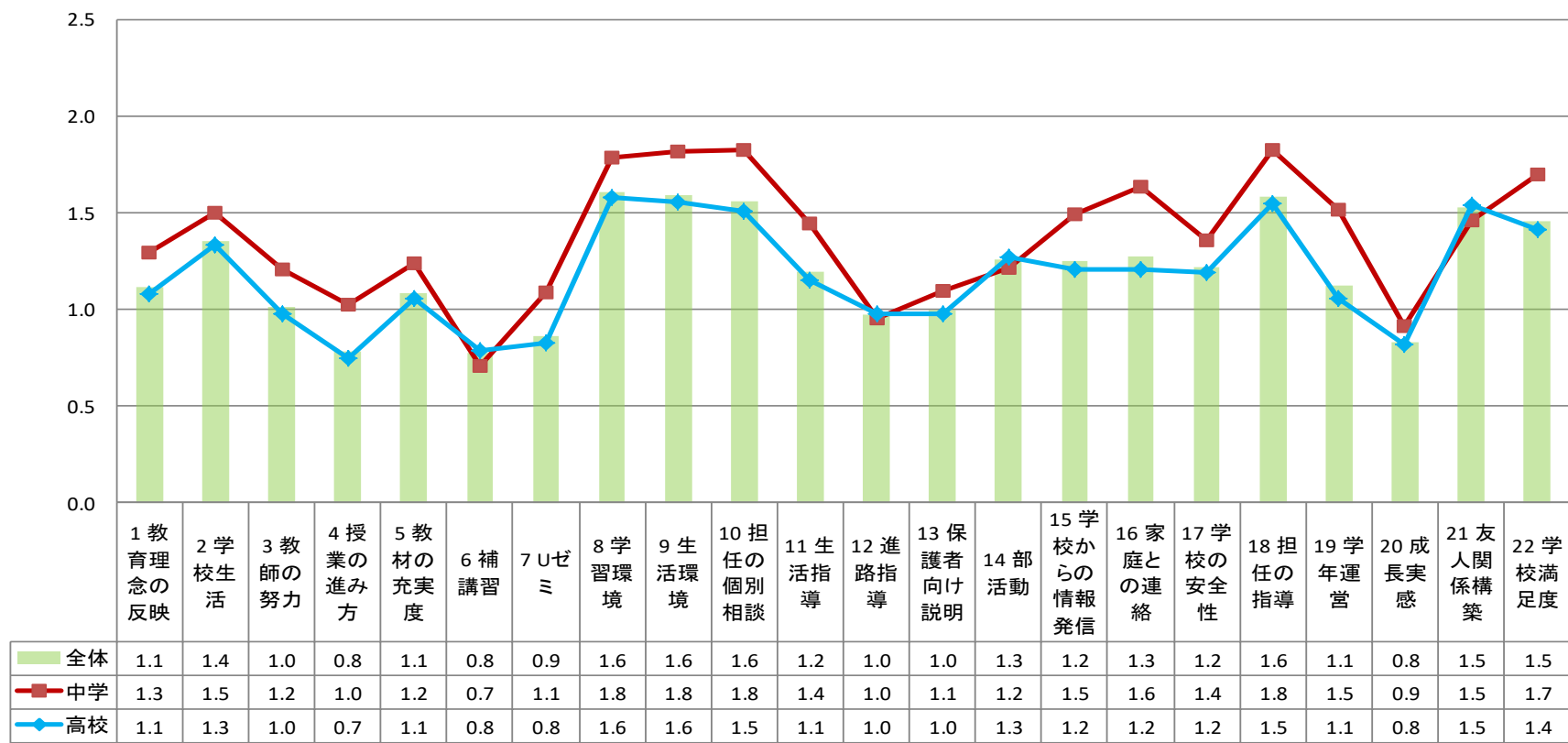
中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析	
I	(1)宗教情操教育の充実	(1)①宗教科を中心に各教科と連携 ②宗教行事の精査	(1)①シラバスの見直し (特に宗教科) ②生徒へ趣旨説明（宗教授業で）	(1) ①B ②B (2) ①B ②B ③D ④D	(1)①他教科との連携まで高めることはできなかった ②授業を通じて説明できた (2) ①生徒説明は実施した。 ②校長から教員へ伝達した。 ③指導頻度の確認に至らず。 ④具体的な検討に至らず。
	(2)上宮ループリックの定着と改良	(2)①新入生への説明会を実施 ②教員への説明 ③ループリックの指導頻度を確認 ④キャリアパスポートとの融合	(2)①説明会の実施 ②説明の実施 ③Blendでの確認 ④2学期中旬まで		
II	(1)今後の教育システムの改良	(1)①コース再編等の取組 ②国公立型、私学型コースの改良 (コース目標・募集含む)	(1)①②とも2学期末まで	(1)D	(1)企画会レベルでは検討したが、次年度に継続する
	(2)教育力の向上	(2)①各コースの目標設定、模試成績データを活用して課題と対策 ②授業法の改良	(2)①各コース・教科の到達目標の数値化 ②教員研修システムの構築	(2) ①C ②C	(2) ①(1)と関連して進まず ②研修の案内は適宜連絡した (3)
	(3)英語教育の充実	(3)①英語定期考査等の年次進行での改良 ②コロナ後の海外語学研修と英語教育の関連を図る	(3)①実施した実績 ②英語科を含む企画会での検討	(3) ①B ②B	①リスニングテストは年次進行している ②オーストラリア研修を推進
	(4)中学生の学力向上への取組み	(4)①学力推移調査および各種検定等の目標設定 ②具体的方策の提示	(4)①1学期中旬までを期日とする ②数値目標の達成度を確認	(4) ①B ②C	(4)中学 ① ②
	(5)放課後の学習活動の充実	(5)①補講習 ②Uゼミ ③自学自習体制の確立	(5)①例年の年間計画の更新 ②学校評価アンケートでの数値化 ③①②以外の取組	(5) ①C ②C ③C	(5)①年間計画は更新したが実施記録の吟味が必要。 評価0.8 ②評価0.9 ③自学自習の一手段として、スタディサブリを導入した。
	(6)生徒の学習意欲の向上	(6)①学習イベントの設定や検証システムの構築 ②大学見学会の充実 ③HR・総合的探究の充実	(6)①具体的設定 ②実施内容 ③実施内容	(6) ①C ②B ③C	(6) ①特に進展なし ②国公立大学や連携大学等の大学見学会を実施した。 ③担任間の取組に差がある
	(7)観点別学習状況の評価	(7)Blendとの連携	(7)1学期中旬まで	(7)B	(7)必要最低限は対応できるようになった

<p>Ⅲ</p>	<p>(1)アフタースクール計画の完成 (2)「ICT」環境の充実 (3)安全・安心な学校を目指す</p>	<p>(1)①各クラブ活動の調査・顧問への聞き取り ②保護者への説明 ③本計画へのUゼミの合流 (2)①Blendの定着 ②eラーニング係を中心とした研修会や実践の共有会を開く (3)①いじめ防止対策委員会の定期的開催 ②いじめ防止対策マニュアルの改正</p>	<p>(1)①計画表の作成 ②1学期末までに行う ③計画表の作成 (2)①学年末での実績 ②開催頻度 (3)①開催頻度 ②改正実績</p>	<p>((1) ①D ②D ③D (2) ①A ②B (3) ①B ②A (1)コロナ禍であり、保護者との連携が取れず進んでいない (2) ①システム移行は完成した ②20回程度説明会を実施 (3) ①事案発生ごとに実施 ②改正を行った</p>
<p>Ⅳ</p>	<p>(1)将来に向けての効果的な入試広報を検討 (2)広報費用の精査をおこなう</p>	<p>(1)①受験以前の市場調査に取り組む ②入学者に対するアンケートを検討する (2)昨年度に続いて、前年度広報項目から削除項目と追加項目を検証し、効率化を図る</p>	<p>(1)①②とも1学期末を期日とする (2)1学期から取組み、3学期初旬に広報費用の報告を行う。</p>	<p>(1) ①C ②B (2)B (1)①検討はしたが、実施に至らなかった ②入学者アンケートを実施し、(2)につなげた (2)理事会や企画会でも確認</p>
<p>Ⅴ</p>	<p>(1)事業計画に基づく財政計画の策定 (2)堅実な財政基盤の確立 (3)社会変化に対応できる組織力確立 (4)学園ブランドの確立</p>	<p>(1)補助金を活用した教育環境の整備計画推進 (2)①教育改革推進を可能とする収支構造の改善 ②補既存の諸制度の見直し (3)①「働き方改革関連法」に則した勤務体制を整備する。 ②教職員人事制度改革の検討。 (4)①同窓会・保護者会・産業界との連携強化 ②地元地域との交流 ③生徒募集広報の創意工夫</p>	<p>(1)ICT教育環境の整備 (2)①計算書類 ②就業規則等の改訂 (3)①変形労働制の確立 ②就業規則等の改訂 (4)①勧募制度の確立 ②学園設備の貸出や行事での交流 ③計画表の作成</p>	<p>(1)B (2) ①B ②C (3) ①C ②D (4) ①D ②C ③B (1)中学生および高1全員がタブレット使用可能になった。 (2)①比較的大きな工事もなく、収支のバランスはとれた ②一部改訂に取り組むも目標の改訂に届かず (3) ①コロナ禍により、理想的な変形までには至らず ②原案作成中であるが、コロナ対策等により完成に至らず (4)①コロナ禍による経済状態の変化や行事の中止により不十分に終わる ②コロナ禍において可能な範囲で実施した ③予算に基づいた広報活動は実施できた</p>

## 5 学校評価アンケートの結果と分析

例年と同様に Classi を利用したアンケート調査形式を採用した。中高の保護者 1374 名から回答を頂き、回答率は 62%と、昨年 の 74%を下回った。質問事項は以下の 22 項目であるが、質問文 6 と 7 は昨年と異なり、補講習とUゼミを分離する質問内容とした。また、昨年の「コロナで休校期間中の学校対応は、満足のいく内容だったと思いますか?」の項目は除いた。22 の項目において 4 段階評価とし、最高評価を 3 点、最低評価を -3 点として平均値を算出した。基準としては、「2.0 以上・目指すレベルをクリアしている 1.5 以上・一定の評価が得られている 1.0 以上・最低限クリアしている 0.5・早急な対策を要する 0 以下・即時の対策が必要」と認識している。

No	2022学校評価質問文 (学校ご提案)	2022短縮表記
1	教育理念が教育活動全般に反映されていると感じますか? □	Q1 教育理念の反映
2	お子様の学校生活は楽しく充実していると思いますか? □	Q2 学校生活
3	教師は生徒の学習意欲を高める努力をしていると思いますか? □	Q3 教師の努力
4	お子様から聞かれて、授業の進み方には満足していますか? □	Q4 授業の進み方
5	教材やテキストは充実していると思いますか? □	Q5 教材の充実度
6修正	平常の補講習は、進路実現に向け充実していると思いますか? □	Q6 補講習
7追加	Uゼミ (英検対策、オンライン英会話含む) は、進路実現に向け充実していると思いますか? □	Q7 Uゼミ
8	お子様から聞かれて、特別教室や、実験室、図書館、体育館などの学習環境が整っていると思いますか? □	Q8 学習環境
9	お子様から聞かれて、保健室や食堂等、安全で健康的な生活環境が整っていると思いますか? □	Q9 生活環境
10	担任は親身になって個別的な相談に応じてくれますか? □	Q10 担任の個別相談
11	基本的な生活習慣が身に付く生活指導が行われていますか? □	Q11 生活指導
12	将来の進路や生き方についての指導が十分なされていると思いますか? □	Q12 進路指導
13	進路及び教育活動に関する保護者説明会や懇談会は充実していると思いますか? □	Q13 保護者向け説明
14	部活動は活発で内容が充実していると思いますか? □	Q14 部活動
15	学校からの通信や文書は、学校の様子が家庭に良く伝わる内容となっていますか? □	Q15 学校からの情報発信
16	学校や教師は家庭との連絡を大切にしていると思いますか? □	Q16 家庭との連絡
17	本校の防犯、防災、安全管理への対策は十分だと思えますか? □	Q17 学校の安全性
18	現在のお子様の担任の指導には満足されていますか? □	Q18 担任の指導
19	現在のお子様の学年の運営には満足されていますか? □	Q19 学年運営
20	お子様は学校の教育理念に示された人間像に向かって成長されていると実感されますか? □	Q20 成長実感
21	学校はよい友人関係を築く場になっていると思いますか? □	Q21 友人関係構築
22	本校を選ばれたことに満足されていますか? □	Q22 学校満足度
2022年度アンケートから削除した設問		
削除	今年のコロナ禍の休校期間中の学校対応は、満足のいく内容だったと思いますか?	休校期間中の対応



全体として、「中学>高校」の評価であったのは、昨年と同様であった。中学の「学校満足度」は昨年と同様の1.7、高校は1.3から1.4と上昇し、全体の満足度も昨年の1.4から1.5に上昇した。昨年も評価の高かった「担任の個別相談」、「担任の指導」に加え、「学習環境」、「生活環境」、「友人関係構築」が評価を上げた。また、「保護者向け説明」の項目も昨年の0.9から1.0となり、やや改善が見られた。

評価が低かった項目は、「授業の進み方」、「成長実感」であり、昨年の設問6を分離した「補講習」、「Uゼミ」の評価も高くはなかった。授業・補講習・Uゼミといった学習関連項目が生徒の成長実感につながることは重要な問題点であり、これらの項目について学校は今後も努力を続けるのは言うまでもない。

一方、保護者は生徒の姿を読み取ってアンケートに回答されたと思うが、実際に学校が取り組んでいる授業内容・補講習内容・Uゼミの内容をもっと保護者に説明する機会や手段を充実させ、保護者の理解を得ることも必要と思われる。コロナ禍で、学校からの情報発信が滞っていた部分もあるが、「保護者向け説明」をもっと活発化することが必要と思われる。

## 6 学校評価の総括

2022年度学校計画・学校評価の項目については、Ⅱ(1)「今後の教育システムの改良」、Ⅱ(5)「放課後の学習活動の充実」、Ⅲ(1)「アフタースクール計画の完成」が低い結果となっている。Ⅱ(1)とⅡ(5)は保護者アンケートで問題となっている点と重なり、①コースの再編、②カリキュラムの見直し、③観点別評価、④シラバスの改良、⑤補講習、⑥Uゼミ等がキーワードとなっている。学校はすでに①～③に着手しているが、④～⑥も精査した上で、①～⑥の内容を生徒・保護者に伝達し、また広報活動を通じて、外部にも周知したい。

Ⅲ(1)「アフタースクール計画の完成」については学校だけではなく、保護者の理解と協力が必要であるが、令和4年度はまだまだコロナ禍にあり、保護者との連携が取りにくかった。令和5年度は改めて状況調査を行なう必要があり、さらにその財源を確保する計画を立てる予定である。

2022年度はまだまだコロナ禍にあったが、文化祭、体育大会など主要な学校行事は何とかやり遂げ、中学入試や高校入試も不安を持ちながらも乗り切った。2023年3月には3年ぶりにオーストラリア語学研修、8月にはフィリピンのセブ島に於ける語学研修も再開する予定である。2023年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行すると、様々な制限が取り払われ、学校生活も通常に戻るものと思われる。学校として、真摯に問題解決に取り組んでいきたい。2023年度の取り組みについての重点目標および関連項目については、「2023年度 学校計画・学校評価」にまとめる予定である。

最後に、今回の保護者アンケートからは、学校運営に保護者の皆様のご理解とご協力が欠かせないものであることが再確認できた。2023年度こそ保護者会活動が徐々にでも再開され、従来の形に近づいていくことを期待したい。以前のように、学校と保護者の方々とのコミュニケーションを通じ、生徒・保護者・学校がともに成長発展していくことを切に望んでいる。

## 7 学校関係者評価

### 【建学の精神・教育方針について】

- 校訓、一枚起請文など、生徒に対して本校の宗教教育の重要性を十分に説明する必要がある。
- 正当御忌式および例月の御忌式の意味合いをもう少し説明する必要がある。

### 【勉強面・進学面について】

- 放課後の活用などを充実させ、生徒のやる気を目覚めさせる必要があると思われる。
- 学習環境は整っているため、進学実績の向上に活用させる。
- 中学生には教科の授業だけでなく、経験・体験を伴ったイベントを行い、具体的に将来を考えさせ、高校での学習へのきっかけを作るべきではないか。

### 【生活面について】

- 始業時間の遵守（8時30分自教室など）を今一度喚起する必要がある。
- スマートフォンに依存し、生活習慣が乱れる傾向にあるため、スマートフォンの適切な使用方法についての研修会などを行う。

### 【保護者と学校の関係について】

- 学校で起こったことは些細なことでも家庭に連絡し、保護者が安心して預けることのできる学校にする。
- 保護者会活動が復活し、その活動を媒介として、学校、教員、保護者の関係が円滑に行くことを望む。

令和4年度 各学年における、本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

【学年】

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析
中学1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 安心できる学校生活の実践に向けた生徒指導の確立</li> <li>(2) 上宮学園中学校としての新たな取り組みの確立。</li> <li>(3) 基礎学力の育成と定着に向けた、学習指導面への取り組み</li> <li>(4) 英検や学力推移調査の結果分析と、生徒への学習指導。</li> <li>(5) 校外学習、スキー実習等の行事企画と運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教員間の情報共有を密にし、学年全体で生徒指導にあたる。学校生活の送り方などを指導していく。</li> <li>(2) 学年会の開催を定期的に行う。</li> <li>(3) 学年集会やホームルーム、保護者説明会を活用し、教育方針、進学規定等を周知徹底する。適切な課題を与え、早朝テスト、補講習を実施する。</li> <li>(4) ホームルーム等での生徒への伝達、指導する。</li> <li>(5) 学年の会議や、職員室にての議論の充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒指導頻度での評価。</li> <li>(2) 学年の会議の回数</li> <li>(3) 早朝テストの実施回数や課題の数</li> <li>(4) 英検合格者数や学力推移調査の結果</li> <li>(5) 行事の回数やブラッシュアップされた行事の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)A (1) 中1は生徒とのコミュニケーションを重視した。</li> <li>(2)C (2) 学年会は少なかった。</li> <li>(3)B (3) 理科・数学の早朝テストを毎週実施した。ただ、他の教科も実施できればよかった。</li> <li>(4)B (4) 以前より英検の熱が上がっていると思われる。中1で英検2級を持っている生徒も出た。</li> <li>(5)A (5) 2学期は積極的に校外学を組んだ。防災に関しては、新しい場所を考え実施できた。</li> </ul>
中学2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 上宮学園中学校としての方針の徹底。(進学規定等)</li> <li>(2) 学習習慣を定着させる教科指導への取り組み。</li> <li>(3) 基本的な生活習慣を定着させる生徒指導の確立。</li> <li>(4) 教科、分掌、学年等における連携や情報共有が行き届いた学年運営。</li> <li>(5) 保護者との連携の充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学年集会やホームルーム、保護者説明会を活用し、教育方針、学校生活の送り方、進学規定等を周知徹底する。</li> <li>(2) 適切な課題を与え、早朝テスト、補講習を実施する。</li> <li>(3) 教員間の情報共有を密にし、学年全体で生徒指導にあたる。</li> <li>(4) 学年会の開催を定期的に行う。</li> <li>(5) 保護者説明会の実施と学校ICT化の充実を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学年集会やホームルーム、保護者説明会の実施回数で評価する。</li> <li>(2) 実施回数で評価する。</li> <li>(3) 学校生活における注意観察状況と指導頻度で評価する。</li> <li>(4) 実施回数で評価する。</li> <li>(5) 実施回数と充実度で評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)A (1) 学年集会やホームルーム等で生徒向けの実践と周知徹底を行い、学校の基本方針および進学規定については、保護者説明会やHRを通じて伝え、理解していただけた。</li> <li>(2)B (2) 学習強化プログラムや朝読、早朝テストなどを実施し、学力向上に努めたが、少し生徒の取り組みに中だるみ感が出てしまった。</li> <li>(3)A (3) 昼食時の注意観察や休み時間の廊下での見回りを実施するとともに、生徒個人との面談機会も多く取り入れることができた。教員間での情報共有もしっかり行えた。</li> <li>(4)A (4) 学年での情報共有を密にすることができた。</li> <li>(5)B (5) 新型コロナの影響下の為保護者説明会を動画配信等でしか行えない回が生じたが、Classi や電話での日々の連絡を盛んにすることで、つながりを密にできた。</li> </ul>
中学3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 上宮学園中学校としての方針の徹底。(特に進学規定に注意)</li> <li>(2) 学力育成と、その定着に向けた教科指導への取り組み。</li> <li>(3) 生徒指導等をしっかりとすることで、落ち着いた学校生活を送らせる。</li> <li>(4) 学年における横の連携と教員間の情報共有による学年運営。</li> <li>(5) 学校及び学年と保護者との連携を密にしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保護者説明会やホームルーム等を利用し、内部進学規定を保護者並びに生徒本人へ確実に伝える。</li> <li>(2) 引き続き、早朝テスト・補習の実施。</li> <li>(3) 教員間の連携を密にし、教員間の差が生まれないようにする。</li> <li>(4) 学年会等を使い、横の連絡を密にする。</li> <li>(5) 保護者説明会の実施や Classi を利用することで、学校の様子を家庭に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 必要に応じた、それぞれの集会の実施回数により評価。</li> <li>(2) テストの実施回数及び補習の開設数で評価。</li> <li>(3) 登下校、教室、授業、休み時間での注意観察状態によって評価。</li> <li>(4) 学年会実施回数により評価。</li> <li>(5) それぞれの実施回数により評価。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)A (1) 進学規定などの学校方針については、本人・保護者共に確実に伝え、実行できた。</li> <li>(2)A (2) 各テストや補習、進学特別補習は実施できた。また、本人・保護者へは、これらの実施について周知徹底できた。</li> <li>(3)B (3) 指導の差がやや見られた時があった。</li> <li>(4)B (4) 伝えることはできたが、時間の関係で学年会としてでなく口頭で伝える時があった。</li> <li>(5)A (5) 保護者説明会・Classi・電話などを使い、どの教員も各家庭との連絡ができた。</li> </ul>
高校1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 基本的な生活習慣を身につけさせる</li> <li>(2) キャリアパスポートの充実</li> <li>(3) 上宮ルーブリックの活用</li> <li>(4) 将来につながる進路指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 二者面談を活用する</li> <li>(2) ポートフォリオ課題を活用する。</li> <li>(3) 面談を通して活用</li> <li>(4) 生徒個々に応じた進路指導をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校生活・生活習慣において評価</li> <li>(2) 面談時に確認する</li> <li>(3) 内容を確認する。</li> <li>(4) 生徒の進路に対する意識で評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)A (1) 朝礼・終礼・LHRなどで各クラス担任から注意してもらい学校生活習慣にも早い時点で慣れることができた。</li> <li>(2)B (2) 卒業中学により、対応はバラバラで入学当時から提出ができていなかった。</li> <li>(3)B (3) 個人面談を通して、上宮ルーブリックを確認できたが、常時活用までではできていない。</li> <li>(4)A (4) 進路指導部との連携で進路指導については充実した指導ができ、各自将来の進路についても考えさせることができた。</li> </ul>

<p>高校2年</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣を身につけさせる                  (2) 将来につながる進路指導                  (3) 学校行事に積極的な参加                  (4) 学年の連携と情報共有</p>	<p>(1) 二者面談を活用する                  (2) 生徒個々に応じた進路指導をする。                  (3) 体育大会・文化祭・修学旅行などクラスで取り組み計画                  (4) 学年会の実施と classi の利用</p>	<p>(1) 学校生活・生活習慣において評価                  (2) 生徒の進路に対する意識で評価                  (3) 行事に対する満足度で評価                  (4) 学年会と classi の頻度</p>	<p>(1)B                  (2)B                  (3)A                  (4)A</p>	<p>(1) 二者・三者懇談を活用して基本的な学校生活を送れるように指導をして来たが、未だ不十分であった。                  (2) 進路指導部からの資料を来年に向けて活かせるように生徒の意識改革を継続する。                  (3) コロナ禍であったが、体育大会・文化祭が実施でき、修学旅行は国内実施であったが、生徒の満足度は高かった。                  (4) 学年間の連絡・連携は Classi を通じて情報共有はできていた。</p>
<p>高校3年</p>	<p>(1) コミュニケーション能力を高め、明確なビジョンを持ち、やり抜く力を持った生徒の育成                  (2) 自分の夢の実現に向けて最後までやり抜く力の育成</p>	<p>(1) 希望する進路に対する志望動機を明確に述べられるように指導                  (2) ホームルームや面談などを活用し、実践例を提示して指導</p>	<p>(1) 志望理由書を作成させ、評価する                  (2) 生徒の進路に対するこだわりを、面談を通じて評価する</p>	<p>(1)A                  (2)A</p>	<p>(1) 予定通り実施できた                  (2) 概ね実施できた。結果3月末になって合格通知を手にする生徒も出てきた。</p>

各コースにおける、本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

【コース】

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析
6 か 年	(1) 自律的学習者の実現 (2) 各学年の学力向上策の促進 (3) 将来の自己像の明確化 (4) 体験的なキャリア教育の実現 (5) コース再編の実現	(1) 各教科での学習方法の指導 (2) 各担任の進路指導の共有化 (3) LHR・探究の有効利用 (4) 自分の進路を自分で決めるという主体性の育成 (5) 六カ年会議等で再編のための協議を行う	(1) 考査・模試等の設定目標の達成度合いによる確認 (2) 六カ年会議の中で学年の取り組みにより確認 (3) 懇談・生徒へのアンケート等で確認 (4) 卒業生・上級生からのアドバイスにより確認 (5) 特進・一貫プレップのよりよい進路の設定	(1)C (1) 目標設定からできなかった。 (2)B (2) 各担任の進路指導の共有化はできた。 (3)B (3) LHR・探求により考えさせる機会は作れた。 (4)B (4) 上級生からのアドバイスは行えた。 (5)C (5) 話し合う機会が少なかった。
I ・ II 型	(1) 生徒の学力が向上する指導 (2) 生徒が希望する進路実現 (3) 自立した学習習慣の指導 (4) 思考力・判断力を育成する授業の研究 (5) コース再編の実現	(1) 模擬試験の結果の分析と指導 (2) 各担任の進路指導の共有化 (3) 各教科での学習方法の指導 (4) 考えさせる授業、ICT活用の実践 (5) 各コースで再編の協議を行う	(1) 生徒による模試の数値目標の達成度で確認 (2) 毎回のコース会議で確認 (3) 生徒へのアンケートを行い、分析結果の共有化 (4) 模擬試験の結果により思考力・判断力が育成されているかを確認 (5) コース再編会議で1学期中に実現	(1)C (1) 十分に出来なかった (2)B (2) コース会議では十分ではないが各学年での情報共有は出来た (3)C (3) 十分できなかった (4)C (4) 重要な課題であったが、十分に出来なかった (5)C (5) 十分に出来なかった
プ レ ッ プ	(1) プレップコースの活性化 (2) 連携・指定校制推薦入試に対する意識の変革 (3) 連携・指定校制推薦に依存しない学力の向上 (4) 生徒の実情に合わせた「パスポート項目」の改定	(1) 行事の見直し（廃止や新規導入）で、生徒の進学意識を高める (2) 説明会等で連携・指定校制推薦がメインの入試でないことを意識づける (3) 模擬試験の復習の徹底などを通して、学力の底上げを図る (4) 年度ごとにプレップ会議で改定について協議する	(1) 業者の教材使用も視野に入れる (2) プレップコース独自の説明会を設ける (3) 「Highschool-online」「Campus」等を利用し取組状況を把握して指導する (4) 各項目の比重を、あるべき生徒像と照らし合わせて決める	(1)C (1) 業者教材の見直し等を行ったが適したものの採用には至らなかった。 (2)B (2) 説明会等によるものかは不明だが、連携・指定校制推薦入試の利用生徒の割合が少し減少した。 (3)B (3) 復習につなげるために、模試受験直後に自己採点の指導を行ったりしたが、復習の徹底には至らなかった。 (4)B (4) 実情に応じて一部改訂したが今後も協議が必要。

各教科における、本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

【教科】

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析
国語	(1) 基本的国語力の充実 (2) 学力推移調査・模擬試験の全体把握 (3) 補講習の充実 (4) ICT教育の研究と活用 (5) 新課程の評価基準	(1) 授業の厳正化を図る (2) 学力推移調査、模擬試験の成績データの結果の分析と対応策の検討 (3) 各コースの教育プランに基づいた補講習の立案、実施 (4) みらいスクールの活用やオンライン授業への対応の研究 (5) 新課程の観点別評価基準について理解を深めるため教科会を活用	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 各コースの数値目標の達成度を確認 (3) 1学期中間考査までを期日とする (4) 1学期中を期日とする (5) 2学期末を期日とする	(1)B (1) コースにより評価の差がある。 (2)B (2) コースごとにまだ差がある。 (3)B (3) コースごとに差があるが、実施はできているコースもある。 (4)B (4) 担当者により差があるので、引き続き対応研究をしていく。 (5)B (5) 新課程、観点別評価への対応は今後も意思統一をしていく必要がある。
社会	(1) 間かず授業内容・工夫の向上 (2) 各コースの基礎学力の定着向上 (3) 新課程への対応に備える (4) コース別(近年多様に変化する受験形態別)指導の確立 (5) アクティブラーニング、ICT教育の充実	(1) 授業の工夫、生徒対応の工夫 (2) 授業の適切化、補講習の充実 (3) 新課程内容の情報の共有と対策研究 (4) 各コースそれぞれのシラバスに基づき、学力進捗の達成 (5) 科目によるPC、みらいスクールの活用とオンライン授業への対応研究	(1) 授業アンケートの数値の向上 (2) 各コースの模試数値目標の達成 (3) 1学期中を期日とする (4) 2学期期末を期日とする (5) 各学期中間・期末を期日とする	(1)B (1) 目指す目標は同じであるが、科目、担当者において、評価の高低のばらつきがある。 (2)B (2) 達成には及ばなかった。 (3)B (3) 新課程、観点別評価への対応は、理解度が浅くまだ期間がかかる。 (4)B (4) 科目、担当者において、達成度にばらつきがある。担当者の目標達成意欲向上が望まれるが、学校の方針の明確化・意欲も必定。 (5)B (5) 同上。
数学	(1) 基礎学力の定着 (2) 授業の質の向上 (3) 変わりゆく大学入試への適切な対応 (4) 補講習の充実 (5) 新課程の評価基準	(1) 小テストのこまめな実施や問題集をこまめに取り組ませるよう指導考えさせる授業や、ICTの活用などで生徒たちが積極的に学習に取り組める授業を実践する (3) 大学の入試問題を解き、教科内で研究し情報共有し、生徒へ情報還元する (4) 各コースの教育プランに基づいた補講習の立案、実施 (5) 新課程の観点別評価基準について理解を深めるため教科会で検討	(1) 模試の数値目標の達成度合いを確認 (2) 授業アンケートによる数値化 (3) 2学期初頭を期日とする (4) 1学期中間考査までを期日とする (5) 1学期末を期日とする	(1)B (1) 模試の平均偏差値が前年度より少し下がっている (2)B (2) 授業アンケートでのICTの項目がまだまだ低い (3)B (3) 8月に教科全体で過去の入試問題を解き、情報共有ができた (4)B (4) 補講習の実施の有用性を検討する時期にあると思われる (5)B (5) 観点別評価の付け方については、今後も教科内で意思統一を図っていく必要がある
理科	(1) 基礎学力の定着 (2) 生徒の学力、進学実績の向上を目指す (3) 補講習の充実 (4) ICT教育の充実 (5) 新課程への対応	(1) 小テストの実施、授業の活性化 (2) 模擬試験の成績データの結果の分析と対応策の検討 (3) 各コースの教育プランに基づいた補講習の立案、実施 (4) ipadを使用しての、デジタル教科書の有効な活用 (5) 新課程の内容の周知に対して教科会を活用	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 各コースの数値目標の達成度を確認 (3) 2学期初頭を期日とする (4) 1学期中を期日とする (5) 2学期末を期日とする	(1)B (1) コロナも落ち着きつつあり、中学や化学・生物等実験も行いつつある。 (2)B (2) 各科目積極的に取り組んだ。 (3)B (3) 期末考査後の講習を中心に積極的に取り組んだ。 (4)B (4) ipadを利用しての授業を積極的に取り組んだが、まだまだ活用できる所を改善したい。 (5)B (5) 観点別評価を中心に理解を進めた。
英語	(1) 英語学力の向上 (2) 資格試験の情報提供 (3) 大学入試への適切な対応 (4) アクティブラーニング・ICT教育の研究と活用 (5) 新課程への対応	(1) 小テスト・課題・補講習の充実 (2) 英検等の情報収集と実施 (3) 大学入試の情報収集と共有 (4) 情報収集と実践の共有化 (5) 新課程の内容の周知に対して教科会を活用	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 学年末を期日とする (3) 2学期末を期日とする (4) 授業アンケートによる数値化 (5) 2学期末を期日とする	(1)B (1) 教科平均3.51 前年-0.02 (2)A (2) 英検中学年3回校内実施 (3)A (3) 共有できた (4)B (4) 教科平均3.51 前年-0.02 (5)A (5) 教科会で情報共有
保健体育	(1) 基礎体力の向上 (2) 安全教育の推進 (3) 規律ある態度の育成 (4) 教員の資質向上 (5) ICTの活用	(1) スポーツに親しむ態度を育てる (2) 安全に留意し事故の無い授業を展開 (3) 感染症対策の徹底 (4) 礼儀、あいつの励行、自主性を育てる授業内容の工夫 (5) 研修会等への積極的な参加 (6) ICTを利用した授業の研究	(1) 年間を通じて行う (2) 年間を通して行う (3) 2学期末を期日とする (4) 学年末を期日とする (5) 学年末を期日とする	(1)B (1) 多少コロナの影響が残った。 (2)A (2) 大きな事故なく達成は出来た。 (3)B (3) 自主性を持って授業に参加する態度には課題が残った。 (4)C (4) 多少コロナの影響が残った。 (5)B (5) 各担当者で共有し進める事ができた。
芸術	(1) 芸術を親しみ愛好する心情を伸ばす授業の展開 (2) 芸術への関心を高めるような内容を構築 (3) 表現及び鑑賞の能力を高める指導の充実を図る (4) 授業の実施方法について教科内の連携	(1) 作品は肯定的に評価し、表現の多様性を理解させる (2) 制作意欲を高める課題の設定 (3) 様々な作品を鑑賞させる (4) 教科会の活性化	(1) 学年末に感想の提出を求める (2) 学期ごとに感想の提出を求める (3) 鑑賞会の実施により意見交換する (4) 中高担当者同士の情報交換を活発化	(1)A (1) 実施できた。 (2)A (2) 実施できた。 (3)B (3) 授業時間の関係で、実施できないクラスもあった。 (4)A (4) 教科間の意見交換は活発にできた。
家庭	(1) 理解度の向上 (2) 教科内での情報共有 (3) 授業の質の向上 (4) 教員の技能向上 (5) 実習授業の実施	(1) 生徒が理解しやすいよう教材等の工夫 (2) 教科会の活性化 (3) ICTの活用 (4) 研修会等への参加 (5) コロナ禍における実習授業実施のための情報収集	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 年間を通じて行う (3) 2学期末を期日とする (4) 学年末を期日とする (5) 1学期中間までを期日とする	(1)B (1) 教科平均中学3.05, 高校3.35 (2)B (2) 実施できた (3)B (3) 実施できた (4)C (4) 授業内でのipadの使用等で努力が必要 (5)A (5) コロナ対策を行い、調理実習を1学期末に実施

<p>情報</p>	<p>(1) 生徒の ICT スキル向上の指導 (2) 情報モラルの育成 (3) プレゼンテーション能力の育成 (4) 共通テスト化に向けての座学の指導の向上 (5) プログラミング指導の研究</p>	<p>(1) 実習課題の工夫を行う (2) 実社会でのモデルを問題とする (3) プレゼンテーションの機会の増加 (4) 教科会での指導の共有化 (5) 新課程での指導を行うプログラミング言語の選定, 研究を行う</p>	<p>(1) 2学期末を期日とする (2) 2学期末を期日とする (3) 2学期末を期日とする (4) 2学期末を期日とする (5) 学年末を期日とする</p>	<p>(1)B (2)B (3)B (4)C (5)B</p>	<p>(1) 生徒も高いスキルで入学しており, 教科指導でさらに向上している (2) モラルの教材を工夫して指導を行った (3) プレゼンの回数を多くして生徒に慣れさせることによりプレゼン能力が向上した (4) 共通テストの情報不足で研究が十分に出来なかった (5) 次年度からの指導に向けて多角的に研究を行った</p>
<p>宗教</p>	<p>(1) 授業内容の精査 (2) 教材研究の質を向上 (3) 教員の質の向上 (4) 宗教行事の充実化 (5) 道徳教育への対応</p>	<p>(1) 教科書を元に何を伝えるか協議 (2) 他校と交流して、情報をえる (3) 教科会で授業動画を検証する (4) 学校と宗教行事を協議する (5) 道徳の教科書を周知する</p>	<p>(1) 授業アンケートで数値化 (2) 学年末を期日とする (3) 2学期末を期日とする (4) 学年末を期日とする (5) 2学期末を期日とする</p>	<p>(1)B (2)A (3)B (4)A (5)A</p>	<p>(1) 教員での情報交換が充実できた (2) 研究会が実施でき情報を得れた (3) 実施できたが回数が少なかった (4) 宗教儀礼の機会を増やせた (5) 資料を協議できた</p>



各分掌における、本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

【分掌】

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析	
高校教務	(1) 教務に関する事項についての連絡を周知徹底したい。 (2) 各行事の企画・運営及び実施にあたり情報収集と内容検討。特に修学旅行実施に向けての情報収集・検討 (3) 新年度時間割発表での教員への早期周知、日常での円滑な時間割業務を目指す。 (4) 各種書類の整理をしていきたい。 (5) 内規の再検討	(1) Classi を用いての連絡の早期徹底周知を図る。 (2) コロナ禍においても実施できる行事を模索する。特に修学旅行ではコロナ禍においても、より安全に実施できる時期・内容を模索する。 (3) 新年度の時間割発表を早めに行うことで、新年度スタート時の時間割トラブルを防ぐ。ただし、教員の要求、特に非常勤講師の勤務に関しては、すべて要望に応えられないことの周知は学校側からお願いしたい。また、日常での時間割変更等、教員の確認ミスをなくす。 (4) 紙媒体から、変更可能なものはコンピューター上での管理への移行、捺印が不要と思われるものはなくしていきたい。 (5) 現在の内規を見直し、現状に即した内容に改定していきたい。	(1) Classi 連絡の 教職員認識 100%を目指したい。 (2) 行事や修学旅行において、生徒の満足度の 80%を目指したい。 (3) 特にここ数年の非常勤講師の白コマの増加や会議の増加などにより時間割作成に困難が生じている。2022 年度はいびつな時間割が完成しないように、各教員の協力を促す。 (4) 教員に対するアンケートを実施し、60%を超えるようであれば左記 (4) の内容を継続していきたい。 (5) 2022 年度中には整備したい。	(1)B (2)B (3)C (4)A (5)B	(1) 情報量が多すぎる面もあり、精査が必要である (2) with コロナという考え方もあり、感染症対策をしながら行事が実施できるようになり、更なる安全面を考慮した実施を工夫する。 (3) 教員の感染症に対する各教科での対応がより柔軟性を持ったものになり、生徒への学習保証に対応できた。 (4) 校内におけるかなりの面でデジタル化への移行が進みつつある。次は定着に重点を置いていく。 (5) 新カリキュラムが高校 1 年生から導入され、その内容も含めて内規の検討も行う。
中学教務	(1) ICT の活用を推進。 (2) 学校行事と学年行事の見直しと改善。 (3) 保護者への情報伝達の迅速化。 (4) 学力向上のためのカリキュラムの検討。 (5) 内規の見直しと改訂。	(1) タブレットの全生徒への配布と教員への研修を実施する。 (2) 新型コロナウイルスの影響による行事の変更と代替の検討をする。 (3) Classi を活用して情報伝達を密にする。 (4) 生徒の学力に見合うカリキュラムの検討をする。 (5) 現状に即したものに改訂していく。	(1) それぞれの授業においての ICT 機器の活用率を高める。 (2) 生徒の満足度 80%を目指す。 (3) 保護者の満足度 80%を目指す。 (4) 2021 年度中に作成する。 (5) 2021 年度中に確定させる。	(1)B (2)B (3)B (4)C (5)A	(1) 授業での ICT 機器の活用や、校外学習での利用など、積極的に活用できた。 (2) 体育大会や文化祭など、コロナ対策を取りながら通常通りの実施ができた。また、スキー実習も再開した。 (3) Classi の活用ができていた。 (4) カリキュラムの変更には至らなかった。 (5) 内規の改訂が完了した。
生活指導	(1) 時代ごとに『生活指導マニュアル』の指導方法及びその内容も変化する。内容の見直しによる全教員の統一された指導の実践。 (2) 重点課題：・遅刻（5分前行動） (3) ・頭髪（奇抜な髪形）・服装（上着のボタン、リボン、ネクタイ、アンダーシャツ、化粧、携帯（校内使用）考査規定の遵守（不正行為） (4) 生活指導部の役割の明確化・担任及び学年中心の指導体制構築・生活指導部は指導のサポート (5) 「SNS」をはじめとするトラブルへの対応・「SNS」に関するトラブルや問題行動への啓発活動や指導・「薬物」に関する啓発活動 (6) 規範意識を持たせることを、生徒の自主性から導き、違反をしないようにさせること	(1) 簡易なイラスト版の作成配布や生徒の問題行動をクラスシーにて配信し、全教員に共通認識をしてもらう。（8割を目指したい）ただし問題行動に関しては機密事項も含まれ、人権問題にも発展するので慎重を期する。 (2) 問題は生徒の日常生活に絡む登校時の遅刻である。遅刻絶無は永遠の課題であるが、遅刻 0 を目指したい。 (3) リボン忘れ、ネクタイ忘れは「うっかり」が原因である。制服のボタン留忘れは「面倒と成長による体形の変化」が原因である。化粧は意図的である。特に女子の化粧違反の絶無を目指すには、「心の化粧こそ真の美しさ」と言ってみたとこで化粧絶無は不可能である。ペナルティーの強化しかないだろう。化粧 0 を目指したい。 (4) クラッシーによる伝達の徹底で共通認識を図る。 (5) 専門家の講演による SNS 上のトラブル対処を学ぶ。生徒に講演を通じてその怖さを学ばせる。生徒事故の 9 割以上がこの SNS が原因である。SNS 事故 0 を目指す。 (6) 事故を起こしてしまった自分。問題行動をとってしまった自分。自分を認識し制御抑制するには当然自己の探求が不可欠である。そう考えればルーブリックの活用の仕方を工夫せねばならない。	(1) 1 学期中を目指したい。 (2) 継続して取り組みたい。 (3) 今年度中を目指したい。 (4) 今年度中を目指したい。 (5) 1 学期中を目指したい。 (6) 今年度中を目指したい。	(1) C (2) C (3) B (4) B (5) A (6) B	(1) 生活指導マニュアルを見やすく、理解しやすい簡略版の作成をする予定であったが、社会的にも性差の問題もクローズアップされだし、本校でのルール決定が出来なかった。 (2) 本年度は、例年通り遅刻をさせない指導を、早朝指導でおこなったが遅刻減少には至らなかった。来年度に向けての遅刻絶無対策の一つとして 8:30 の本鈴直後に駆け込んでくる生徒の人数を数える調査を行うにとどまった。 (3) 昨年度に比較して、僅かではあるが減少した感がある。 (4) 昨年度よりは一步進んだ。 (5) 予定通り実施できた。 (6) ルーブリックの内容を指導生徒に適用できたと思う。例年、同一項目の指導を繰り返し受ける生徒が出るが、本年度は減少した。

<p><b>進路指導</b></p>	<p>(1) 進路学習の見直し (2) 基礎学力の向上 (3) Uゼミ年間計画の見直し (4) 本校生徒の現状把握 (5) 中学校の進路</p>	<p>(1) 進路 LHR を軸にした進路学習の見直し (2) スタディサプリや進研デジタルサービスなどのデジタルコンテンツの利用の徹底 (3) 問題点を精査し、合理的な運営法について検討する (4) 模試成績及び志望動向の分析 (5) 中学の進路説明会等の精査</p>	<p>(1) 進路 LHR の実施計画の立案・実施 (2) デジタルコンテンツの使用率の向上 (3) 次年度に向け、ガイドブックを作る (4) 模試分析資料を作成する (5) 中学の進路説明会等のスケジュールを作成する</p>	<p>(1)B (2)B (3)A (4)C (5)B</p>	<p>(1) 各回の立案・実施を行い。次年度に向けて、年間を通じた実施案の検討を行った。 (2) デジタルコンテンツの使用は基本的に、自宅での利用となるため、利用の徹底には至らなかった。 (3) 合理的な運営法について検討し、申込受付のオンライン化等を行った。ガイドブックの作成は行わなかったが、それにかえてUゼミのWebサイトを作成した。 (4) 模試分析資料の作成が出来ていなかった。 (5) 保護者説明会で例年通りの実施となった。</p>
<p><b>入試対策</b></p>	<p>(1) 塾・中学校訪問を中心とした効果的なアプローチの仕方を検討する (2) 部署内の情報の共有化を図る (3) 上宮太子入試対策部との必要な情報の共有化を図る (4) 広報戦略との連携 (5) 説明会などのイベントについて中学教務・高校教務・事務局との連携を図る</p>	<p>(1) 各エリア担当で全エリアの訪問をする (2) 会議を通じて話し合う (3) 連絡を取り合う (4) 相談・連絡の徹底 (5) 相談・連絡の徹底と連携を強化する</p>	<p>(1) 受験生・入学定員の確保 (2) 連絡事項の確認の徹底 (3) 両校の関係を密にする (4) 広告や説明会などの精査 (5) 意見の集約</p>	<p>(1)B (2)B (3)B (4)B (5)B</p>	<p>(1) 予定していた入学者数を上回った。 (2) 概ねできた。 (3) 徹底できなかった。 (4) 概ねできた。 (5) 学校説明会などのイベントについて、引き続き他部署との連携を強化していく。</p>
<p><b>eラーニング</b></p>	<p>(1) 中学授業での iPad 利用促進 (2) 生徒の CClassi 利用促進 (3) 個別最適化された学習の促進 (4) BLEND の利用促進 (5) 将来の校内 ICT 化に向けての検討</p>	<p>(1) Classi Note を用いた授業等の公開授業の実践 (2) Classi ポートフォリオ機能の利用促進 (3) Classi 学習マップ、学習動画の利用促進 (4) システムの利用研究 (5) 他校実践等を研究し、実践可能な ICT 化の実現</p>	<p>(1) 1学期中間考査までを期日とする (2) 年間5回のポートフォリオ配信と生徒による自主投稿の実現 (3) スタディーサポート結果返却後に学習マップに連動した学習動画の配信 (4) 1学期末を期日とする (5) 2学期末を期日とする</p>	<p>(1)C (2)C (3)C (4)B (5)B</p>	<p>(1) Classi Note よりもロイロノートの方が利用率が高かった。公開授業は出来なかったが利用率は高かった (2) 十分に出来なかった (3) スタディーサポートでは出来なかったが模擬試験の事前学習には活用出来た (4) BLEND の利用は広まった (5) デジタル採点など ICT 化は進んだ</p>
<p><b>探究学習</b></p>	<p>(1) 「総合的な探究の時間」の内容を教員、生徒に理解してもらう (2) 探究課題を積極的に見つける (3) 課題解決に向かう主体的な姿勢を身につける (4) 地域・社会貢献への意識をもつ (5) 結果をまとめ発表できる表現力を身につける</p>	<p>(1) 会議・ガイダンスで説明を周知徹底する (2) 創意工夫により事実を理解させ、問題意識をもたせる (3) 実例をあげて主体的に取り組ませる (4) 地域活性化を考えることを通じて社会・環境情勢に興味をもたせる (5) 各学年、生徒各自で探究学習の記録をポートフォリオに残していく。</p>	<p>(1) 全学年・クラスで「総合的な探究の時間」に取り組む (2) 探究課題の設定を行う (3) 情報の収集・読取り・分析 (4) 探究課題のまとめ考察 (5) クラス単位から学年全体の発表へと向かう</p>	<p>(1)A (2)B (3)B (4)B (5)C</p>	<p>(1) 高1・2は「鹿島建設の学習プログラム」より基礎編を取り組めた。高3は従来からの取り組みより、課題設定から疑問点・問題点に対する探究学習に取り組めた。 (2) 高1・2は来年度の学習目標。高3は実施できている。 (3) 高1・2は来年度の学習目標。高3は実施できている。 (4) クラスにより、個人・グループによる実行ができた。 (5) 今年までの感染状況の継続より、実施できなかった。</p>
<p><b>広報戦略</b></p>	<p>(1) 学校案内、ポスター等の作成 (2) プレテスト、校内見学会の案内チラシの作成 (3) web 広告、デジタル広告の企画 (4) 上宮ブランドの構築</p>	<p>(1) 年度の早い段階での完成 (2) デザイン性の優れたものを完成させる (3) 業者案についての研究を進める (4) 上宮の持つ他校との決定的な差異を掌握</p>	<p>(1) 中学パンフは4月下旬、高校パンフは5月下旬の完成予定 (2) 他校との比較研究 (3) 実際に契約を結び、口コミの研究を行う (4) 研究する場を設け、意見を集約する。</p>	<p>(1)B (2)B (3)B (4)B</p>	<p>(1) コロナ禍でさまざまな影響を受けて例年よりも完成時期が遅くなった。 (2) 斬新なデザインのチラシが完成した。公開授業見学会の内容や時間をさらにわかりやすく提示する必要がある。 (3) 実際の上宮の 口コミ はあまりよくない。受験 WEB サイトには多くの受験生が関心を持っているのがわかった。 (4) 上宮と他校との差異を明らかにし、アドミッションポリシーなど具体的な取り組みを提示することが、上宮ブランドの構築につながると思う。</p>

<p><b>図書館運営</b></p>	<p>(1) 昨年度以上の貸出冊数をめざす。中高合わせて7000冊をめざしたい。                  (2) 古く、近年貸し出しがされていない蔵書は極力減らしていく。                  (3) 紀伊国屋書店との連携を取り、図書館運営を生徒にとって有意なものにしていく。                  (4) アクティブラーニングスペースを有効活用してもらい、有意義なスペースにしていく。                  (5) 放課後の図書館の使用方法を今後見直していく。</p>	<p>(1) LIBSTAGRAM や図書館報などの呼びかけで図書館に来る生徒数を増やしていく。                  (2) 過去3年間借りられていない書籍をピックアップする。                  (3) 月に一度の会議を行っていく。                  (4) 中学だけに問わず、高校の各教科の先生にも活用してもらう。                  (5) コロナ禍で使用時間の短縮が常とされている中で、テスト前などの使用方法の改善に努める。</p>	<p>(1) 7000冊以上                  (2) 100冊以下                  (3) 年間12回                  (4) 1日1時間以上の高校授業                  (5) 生徒にアンケート評価をしてもらう。</p>	<p>(1)B                  (2)A                  (3)A                  (4)A                  (5)A</p>	<p>(1) 昨年度と比較し、貸出冊数と来館者数については増加した。                  (2) 左記のような蔵書は精査されている。また、書庫にある扶養図書についても事務所と連携をとって処分していく方向である。                  (3) 会議も頻繁に行うことができた。                  (4) 各教科で積極的に活用していただけたと感じている。                  (5) コロナ禍で定期考査前などは制限があるが自習学習の質は良いものになっていると思う。</p>
<p><b>人権教育</b></p>	<p>「生徒に、互いを尊重する共生社会のあり方を考えさせる。」                  (1) いじめは著しい人権侵害であることを認識させる。                  (2) 現代社会におけるマイノリティーに対する理解を深めさせる。                  (3) インターネットと人権に関する理解を深めさせる。                  (4) 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について考えさせる。</p>	<p>(1) 人権教育 LHR の指導案の完成度を高め、教材の工夫も行う。                  (2) 研修・資料により、教員の認識を高める。                  (3) 中高において、1年では「いじめ問題」、2,3年では「マイノリティー」・「インターネット」と人権に関する人権教育 LHR を企画する。</p>	<p>(1) 「生活・いじめアンケート」結果                  (2) 「ワークシート」記述内容                  (3) 「意見交換」状況                  (4) 日常の交友関係・生活状況・言動</p>	<p>(1)B                  (2)B                  (3)B                  (4)B</p>	<p>(1) アンケートによる啓発活動を行う                  (2) 積極的な取り組みができなかった                  (3) ホームルームにおいてネット問題を話し合った                  (4) 積極的な取り組みまで至らなかった</p>
<p><b>保健管理</b></p>	<p>(1) 「生徒が自分の心と体の健康を意識しながら、守り、作る」を重点とした健康づくり                  (2) 心身の健康について、自ら考え自己管理できる生徒の育成                  (3) 生命・体の大切さを発信し、健康リテラシーの定着を図る</p>	<p>(1) ①健康診断の意義、疾病の予防と治療に努めさせる                  ②生涯にわたっての健康づくりができる力を身につけさせる                  ③健康・安全に関する意識を高める                  (2) 心の健康問題の早期発見に努め、早期対応できる支援体制を整える                  (3) 救急処置・救命講習会を通じて理解・実践を深める</p>	<p>(1) ①啓蒙資料、健康診断の結果、受診勧告書を作成し、配布する                  ②健康づくりの基本を身につけるよう体育科と協同する                  ③学校薬剤師の指導を受け校内の環境を整える                  (2) 個に焦点を当て、個人に配慮した支援をする                  (3) 来室生徒にとどまらず、クラブ生にも広げ、教員研修にもつなげる</p>	<p>(1)B                  (2)B                  (3)B</p>	<p>(1) 健康診断受診率は高い。健康診断の結果からのヘルスケアに重点をおいた。                  (2) 心の問題が身体に現れる生徒は増加の一方で、個に対する時間が必要である。                  (3) 中2・高1の性教育講演会は、生徒の態度がよくて講師から好評を得た。</p>
<p><b>教育相談</b></p>	<p>(1) 係員個々人のスキルアップ                  (2) 教職員の臨床的視点の醸成                  (3) 「親の集い」「ホップの会」実施                  (4) 外部機関（医療、相談機関）との連携                  (5) 広報</p>	<p>(1) ①面接機会を増やす                  ②研究会・研修会への参加                  (2) ①研修会・担当者会議の実施                  ②各担当者へのコンサルテーション                  (3) 保護者のニーズに応え実施回数を増やす                  (4) 連携を通して情報交流を図る                  (5) HP や Classi の利用</p>	<p>(1) ①面接記録を作成し係会議での報告                  ②参加後の振り返り                  (2) ①生徒理解とその支援                  ②生徒理解とその支援                  (3) 保護者同士の心理的交流                  (4) 生徒の支援につなげる                  (5) 係の活動の認知</p>	<p>(1)B                  (2)B                  (3)A                  (4)A                  (5)B</p>	<p>(1) 例年より面接を SC に多く振ったことにより、係の面接回数が減った。積極的に面接を取ることで係のスキルアップにつながることを期待している。                  (2) 単発での担当者会議では臨床的視点の醸成は難しいと考えている。                  (3) 同質性の高い保護者同士が集まることで、横、縦のつながりができ、保護者の精神的安定につながり、これが生徒への支援にも通じる。                  (4) 今年度は医療だけでなく、特別支援で外部との連携ができた。                  (5) 保護者へ活動の認知はできているが、さらなる発信が今後求められると考えている。</p>

<p style="text-align: center;"><b>特別支援</b></p>	<p>(1) 係員個々人のスキルアップ (2) 教職員の臨床的視点の醸成 (3) 支援を要する生徒の調査 (4) 外部機関（医療，相談機関）との連携 (5) 支援シートの作成</p>	<p>(1) ①面接機会を増やす ②研究会・研修会への参加 (2) ①研修会・担当者会議の実施 ②各担当者へのコンサルテーション (3) 保健管理票，保護者・担任からの情報を得る (4) 連携を通して情報交流を図る (5) 教科担当者，保護者へ年2回のフィードバック</p>	<p>(1) ①面接記録を作成し係会議での報告 ②参加後の振り返り (2) ①生徒理解とその支援 ②生徒理解とその支援 (3) 情報を総合し，支援シートに反映 (4) 生徒の支援につなげる (5) 保護者と教科担当者との支援シートの共同作成</p>	<p>(1)B (2)B (3)A (4)A (5)A</p>	<p>(1) 例年より面接をSCに多く振ったことにより，系の面接回数が減った。積極的に面接を取ることで系のスキルアップにつながることを期待している。 (2) 単発での担当者会議では臨床的視点の醸成は難しいと考えている。 (3) 申請のあった生徒の支援シートは十分に機能をはたしていると考えている。 (4) 今年度は医療だけでなく，特別支援で外部との連携ができた。 (5) 支援シートは前期，後期とそれぞれの時期で保護者へフィードバックしている。また大学進学時に，支援シートを大学へ提出している。</p>
<p style="text-align: center;"><b>生徒会</b></p>	<p>(1) 教員間の情報の共有化 (2) 学校行事における生徒会業務の内容の吟味と効率化 (3) コロナ禍における体育大会の実施方法 (4) コロナ禍における文化祭の実施方法</p>	<p>(1) 会議資料を充実させる (2) 内容を洗い出し、最善策を検討 (3) 体育科教員からの意見を求め、安全に実施できるように進める (4) 多くの教員からの意見や、生徒からの意見も参考に進める</p>	<p>(1) 記録を作り報告する (2) 報告書の作成 (3) アンケート調査 (4) アンケート調査</p>	<p>(1)B (2)B (3)A (4)A</p>	<p>(1) 必要な場面で適度に作成できた。 (2) 内容の検討はできたが、まだまとめ切れていない。 (3) 競技進行について、会議を持つことが出来、体育大会を安全に実施することが出来た。 (4) 様々な意見を集約して、文化祭を実施できた。</p>